

〔 報告 〕

第60回暁烏記念式・記念講演開催



< 中村学長から暁烏家御当主暁烏照夫氏に感謝状贈呈 >

附属図書館では、平成21年4月23日（木）午後2時から、第60回暁烏記念式及び記念講演を中央図書館3階のAV室で開催しました。

この記念式は、石川県松任市（現白山市）出身で、明治・大正・昭和の思想界・宗教界に大きな影響を与えた暁烏^{あけがらすはや}敏師（1877 - 1954）が、金沢大学に蔵書を寄贈されたことに由来しています。寄贈された昭和25年4月29日にちなみ、4月29日を暁烏記念日とし、毎年この日の前後に記念式と記念講演を行っています。

師の蔵書群は、個人蔵書としては類を見ない、5万冊を超えるものでした。仏教関連書が三分の一を占め、明治以後の哲学書・文学書・歴史書、さらにはヨーロッパ各言語の原書も含

まれていました。これらは、附属図書館で「暁烏文庫」として整理・公開されましたが、戦後すぐの本の少ない時代、当時の学生たちにとっては貴重な学術資料となりました。

記念式では、中村学長の式辞に続き、柴田附属図書館長から「暁烏師の業績」、「暁烏文庫の由来」、「蔵書を集めた経緯など」についての説明がありました。続いて、本学への永年にわたるご功績をたたえるため、中村学長から暁烏家御当主暁烏照夫氏に感謝状が贈られました。

記念式の後、休憩を挟み、「念仏の力 命の言葉」と題した暁烏照夫氏の講演がありました。仏教の原点にして一番現実的な課題「人間は生きながらにして本当の安らぎを得ることが出来

るか」についての講演でした。南無阿弥陀仏と仏の名を呼ぶだけで済む念仏、その力の源泉はどこにあるのか。念仏は「口に発するもの＝息」であり、息は命に他ならないものである。すなわち「念仏の力は命の言葉である」というお話でした。

この講演会には、市民や学生など学内外から

100名以上の参加があり、大盛況となりました。補助席も足りなくなり、立ち見が出るほどでした。

また、暁烏敏師の著書等を展示した特別閲覧室では、参加者が興味深く見学していました。

（情報企画係長 守本）



< 講演会は聴講の方でいっぱいになりました >



< 暁烏敏師の著書等を展示した特別閲覧室の様子 >

【お知らせ】

暁烏敏師の遺徳を偲ぶ行事として毎年行ってきた記念式ですが、60回の節目を迎え、今回をもって終了することになりました。60年間どうもありがとうございました。

今後は、附属図書館で開催していたシンポジウムと結合・昇華し、より広いテーマや視点から師の業績をたたえ、継承していく予定です。乞うご期待！！